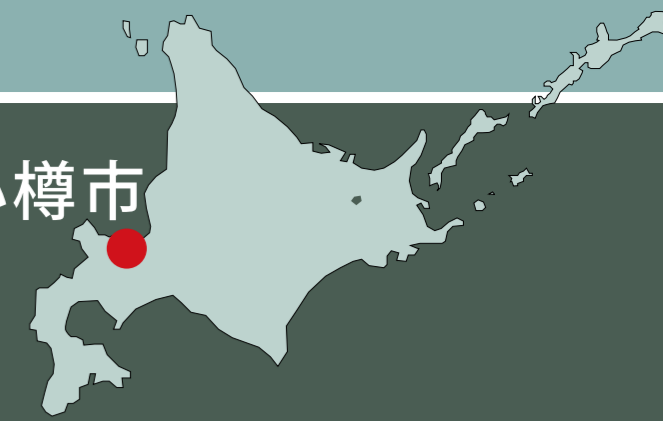


手宮公園 (小樽市)

小樽市



眼下に小樽港を展望できる、絶好の位置にある

港町小樽を代表する都市公園

手宮公園は、1900(明治33)年に共同遊園地として国有地の払い下げを受け、道内に現存する4番目に古い都市公園である。確認できる最初の図面「手宮公園設計概図」によれば、陸上競技場や遊戯広場、一部の園路などは現在まで引き継がれており、また手宮洞窟や旧高架栈橋線レンガ積み擁壁、高射砲台座などの存在も、歴史的な用途・機能を今に伝えている。

かつて積丹半島から小樽にかけてはクリの多い地域であったが、鯨粕製造用の薪材として多くが伐採され、さらに桜植樹など公園整備により園内でも一部は損失したが、約5haに樹齢100年以上の大木が約250本も残されている。近年“北限のくり林の会”が結成され、園内の実から苗木を育成し補植を行うなど、地域の「思い入れ価値」も高く評価される。



1931(昭和6)年の絵図では、グラウンド周りに桜が植えられているのが分かる

概要

名称	手宮公園
所在地	小樽市手宮1,2,3丁目
管理者	小樽市
規模	19.7ha
種別等	都市公園(総合公園)
開設年	1900(明治33)年
告示年	1976(昭和51)年 都市公園告示

1983(昭和58)年に手宮都市緑化植物園が開園



手宮洞窟と其上を走る高架栈橋線の鉄道 1935(昭和10)年頃